

成果の説明書

(氏名)熊澤利和	(学部)地域政策学部
1 重要事項 1) 成果説明 (大要) (1) 【教育、研究、社会貢献等の分野】 令和元年度 (2019 年度) の【教育、研究等】の分野に関する成果は、以下に集約される。 a) 【教育・研究】に関して、本年度は、下記の三点について重きを置いて行った。 ①新たな調査研究として協力先の開拓をおこなった。 具体的には、A 県のがん専門病院の看護師への調査・B 県の大学看護学生等への調査への打診と調整・文献検討、C 大学 (社会科学系) 大学生に対する『人生会議』に関するアンケート調査を行った。(熊澤・森田) ②オーストリア、アイルランドにおける意思決定の関連法に関する調査 (谷口) ③がん患者への ACP に関する調査 (参与観察法) によるデータ収集 (郷堀) 上記①～③については、本学研究奨励費 (令和元年度) を受託し、下記の研究課題名により研究を展開した結果である。 研究課題名: がん患者の意思決定支援過程に影響を与える価値・行動様式に関する実証的・法的研究 (令和元年度) 研究代表者: 熊澤利和 研究分担者: 谷口聡 (本学 経済学部)・森田稔 (本学 地域政策学部)・郷堀ヨゼフ (淑徳大学アジア国際社会福祉研究所) b) 【研究報告】については、下記のものを示した。 共同研究者より ①谷口聡「連合王国の意思能力法における「事前の意思決定」規定に関する一考察」『高崎経済大学論集』 第 62 巻 第 2 号 2019 19～46 頁 ②谷口聡「連合王国の意思能力法における「独立意思能力代弁人制度」の検討」高経論集 62 巻 3・4 号 c) 【学会報告等】 研究報告 (共同) より ①森田稔 熊澤利和 郷堀ヨゼフ「宗教的要素が医療者の職業上の満足度や達成度と感情労働に及ぼす影響分析」日本地域政策学会 第 18 回全国研究【群馬】大会 ②郷堀ヨゼフ 熊澤利和 森田稔「今後の緩和ケアにおける『宗教的ケア』の位置づけと役割に関する考察」日本地域政策学会 第 18 回全国研究【群馬】大会 これまでの研究を踏まえて、今年度、科研費の応募の申請を行ったが不採択であった。その結果を踏まえて、再度、研究内容を見直し、令和 3 年度 (2021) 年度からの研究費獲得を行っていきたいと考えている。 d) 【地域貢献／社会貢献活動】 ①ラジオ高崎「ラジオゼミナール」にて、意思決定支援、アドバンス・ケア・プランニング (人生会議) に関する話を行った。 ②全国ボランティアコーディネーター研究集会 (JVCC) 2020 東京 全国ボランティアコーディネーター研究集会 (JVCC) 2020 東京の実行委員 (令元年 (2019) 年 6 月～令和 2 (2020) 年 3 月として関わってきた。	

e) 【学会関連】

- ①仏教看護・ビハーラ学会監事及び編集委員（令和元年 9 月 1 日～令和 4 年の総会まで）
- ②日本地域政策学会理事（平成 30 年（2018 年）7 月～令和 2 年（2020 年）6 月）
- ③大正大学社会福祉学会事務局長（継続）

（2）【学内業務の分野】

学内業務の分野では、

①図書館長として、学内の図書館を通して学術情報に関する運営にあたった。また教育研究審議会のメンバーとして大学全体の運営に図書館長として携わった。

②入試課題検討委員会として入試制度についての検討等に携わった。

③新カリキュラムでは、高崎市の課題と政策 令和元年（2019 年）12 月 18 日（水）

「やさしい眼差しに満ちた市政」講師：高崎市福祉部長寿社会課 志田 登氏の講義時及び成績の評価の担当をした。また令和 2 年（2020 年）1 月 15 日（水）まとめを担当した。

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

図書館長として継続的に学術情報の整備と学生や市民に利用しやすい図書館の継続的な運営について取り組んでいきたいと考えている。

特に、新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンラインにより活用できることの検討が必要だと考えている。